

沖縄島のセルフインプレコ類

嶋津 信彦

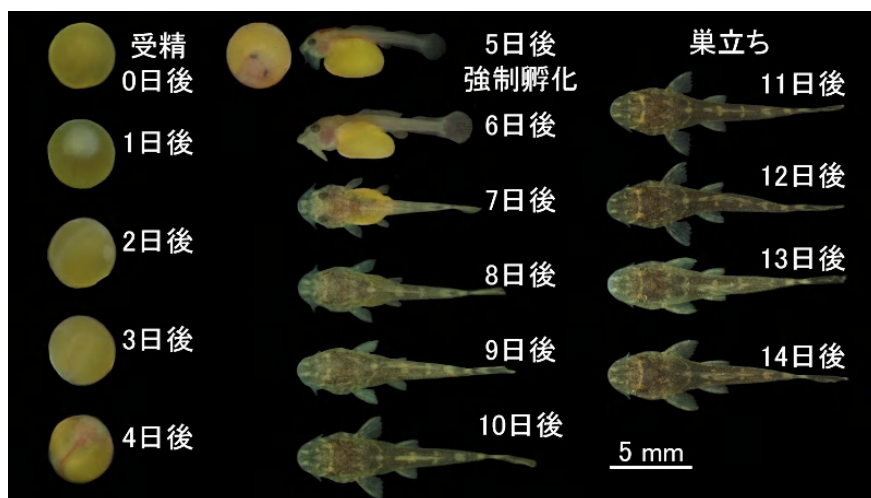
YouTube:【外来種】プレコの大群 http://youtu.be/L3VFDvrS_o

沖縄島に定着しているプレコ類は、ナマズ目ロリカリア科に属す南米原産の外来魚である。すべてマダラロリカリア *Pterygoplichthys disjunctivus* とされるが、分類形質の腹部の模様において、多型が認められ、別種や雑種の存在も疑われる。また名称においてもロリカリアは一般にロリカリア亜科の細長い魚類の流通名であり、まだら模様を持つロリカリア科魚類は無数に存在する。観賞魚由来の外来魚であることから、野外への遺棄を抑止するためにも流通名を和名として採用すべきと思われる。しかし、流通名のヒポプレコは、*Hypostomus plecostomus* の略であるため不適當である。そこで未定着であるがヒポプレコと同属で流通量も多い *P. gibbiceps* がセルフインプレコと称されることから、今回の発表では沖縄島のプレコ類をセルフインプレコ属 *Pterygoplichthys* spp.と称することにする。

セルフインプレコ属は、沖縄島では 1991 年に比謝川ではじめて確認され、これまでに計 13 水系から確認されている。導入経路は、個人による飼育個体の遺棄や某娯楽施設内の池からの流出など複数からなると思われる。本種は、最大で深さ 1.3 m の横穴を掘り、その中で雄親魚が卵塊や仔稚魚を保護する。この習性により、土壌浸食を促進するなど生態系の物理的な基盤を変化させてしまう危険がある。一方でその時期と期間を特定し、それらを駆除することで繁殖を抑制することも可能と考えられる。本研究では比謝川における本種の産卵期と巣立ちまでの初期生活史を明らかにした。

2011 年 8 月～2012 年 7 月に比謝川上流の 1 定点で本種を毎月 20 個体採集した。採集個体(標準体長 192～384 mm)の体重と生殖腺重量をそれぞれ計量し、生殖腺指数(生殖腺重量/体重×100)を算出した。2011 年 5～8 月 16～18 時に定点から下流約 150 m の区間で川を遡りながら巣穴に手を入れ、仔稚魚を 3～6 個体または卵塊を採集した。卵塊では 3～6 個の卵を引きはがし、残りを巣穴に戻した。巣穴を識別し、同じ巣穴から可能な限り毎日連続して採集した。採集した卵・仔稚魚をその日の 21 時までにスキャンし、画像で形態を観察した。

比謝川の本種は、生殖腺指数の月平均値の経月変化から、5～8 月が主な産卵期であると推定された。4、9 月にも卵巣が発達した個体が確認され、産卵する個体もいると考えられる。卵・仔稚魚は、5、6 月に 13 穴、7、8 月に 27 穴から採集された。形態観察から、比謝川では受精から 5、6 日後に孵化し、11～14 日後に巣立つと推定された(図)。



図．比謝川におけるセルフインプレコ属の巣立ちまでの初期生活史